毎日変わらない単純作業で
未来に絶望していた男が
工場勤務の奴隷から解放されて
自由を手に入れた物語

上司に
「階段の手すりを持て」
と叱られたので

会社を辞めてやった。

[著]神楽

会社に依存せず
個人で自由を実現する
次世代のライフスタイルとは

～目次～

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第１章　工場勤務に未来はない・・・・・・・・・・・・10

1-1　やりがいが全くない・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

1-2　肉体と精神がじわじわ削られる・・・・・・・・・・・・・・18

1-3　スキルが何も身につかず、成長しない・・・・・・・・・・22

1-4　給料が増えずにジリ貧になる・・・・・・・・・・・・・・・27

1-5　これからはAIの時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

第２章　人生のQOLとは？・・・・・・・・・・・・・・35

2-1　QOLとは？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

2-2　工場で働く限り、QOLは低いと言わざるを得ない・・・37

2-3　１度きりの人生、それで良いのか？と問う・・・・・・・40

2-4　神楽は工場勤務を辞めてどうなった？・・・・・・・・・・49

第３章　これからは個人が活躍する時代・・・・・・55

3-1　インターネットによる恩恵・・・・・・・・・・・・・・・・57

3-2　個人がしっかりと活躍していける時代・・・・・・・・・・61

3-3　誰にでも可能性というチャンスは開かれている・・・・・64

第４章　工場勤務の奴隷から解放されるには？・・・67

4-1　外の世界を知ること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68

4-2　外の世界へ行くために知識を得ること・・・・・・・・・・72

4-3　外の世界へ行くために邪魔になるものを排除すること・76

4-4　人生のわずかな時間だけ集中して取り組むこと・・・・・80

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83

ある日、僕は上司に呼び出された。

仕事を中断させられたが、心当たりがない呼び出しほど、不吉な予感がするものはない。

その白髪の生えた上司は、コミュニケーションの「コ」の字も知らず、普段から作業者に話しかけるようなことはしないから(できないから)何か良い話があって、呼び出されたわけじゃないのは容易に想像ができた。

(俺、なにかしたっけな……？) そんなことを考えながら、上司が待ち構えている、小部屋へと向かった。

（あー、やだな）と軽いため息を吐きながら、小部屋に入ると、沈黙した空気が流れていた。1秒か2秒も経たないうちに「これ、なに？」と、上司が口を開いた。

目の前に出されたのは、階段の手すりを持たずに登っている僕の写真。現場の証拠は抑えてあるんだぞ、とでも言いたげだ。

（うわぁ、マジか……）内心で、今度は大きなため息が漏れた。

僕が働いていた工場は、規模がかなり大きいためルールや安全にうるさい。だから、細かくて嫌になるような（誰もが、見てないところでは実行すらしない）ルールが多数決められている。

たとえば、階段を２段飛ばしで昇降したらいけないとか、靴のかかとを踏んで歩いてはいけないとか、通路を早歩きしてはいけないとか、そういう類の細かいルールがたくさんある。

その中の１つに「階段は手すりを持って昇降すること」というルールが存在していた。

しかし、僕はそのあまりにもくだらないルールに従わずに、今日の昼飯は何にするかなあと言わんばかりの呆けた顔で階段を上っているところを、あらかじめセッティングされていたカメラでバッチリ盗撮されていたのだ。

（まじか。俺、すげー、あほ面じゃん……）

一番初めに出てきた感想がこれだった。それと同時に面倒臭い時間が始まるのだと悟った。

何千人も働いている工場で、ほかにも手すりを持っていなかった作業者は多数いただろうに、僕を特定して上司に報告した奴は、もっと他のことに労力を使えよ。

こう感じたのは言うまでもなかったが、その執念には少しばかり感動を覚えた（後日話を聞くと、実際多くの作業者が叱られたらしい）

ぶっちゃけ言って、この白髪上司にまったく非はなく、普段無能すぎて作業者達から嫌われていることを差し引いたとしても、完全に僕が悪いので申し訳ない気持ちもあった。

だけど、こんなくだらないことでギャーギャー騒ぎ立てることにいささか疑問があった。

くだらない。実にくだらない。

労災になるからだと言うが、この上司の知らないところで、保護具を着用せずに危険物を取り扱っている人間、仕事をうまく抜け出してゲームをしている人間、

ずっとピーチクパーチク喋っていて機械を止めている人間、人と話すことだけの残業泥棒を平気でやっている人間、こういう奴らが陰でわんさかいるというのに、なぜこんなくだらない階段の手すりごときでワーワー叱れるのかが謎だった。

この白髪の上司が普段、サボって工程を見回りに来ないから、階段の手すりよりずっと問題になることをやっている奴らに気が付かない。こっちの方が普通に重大だと思うのは気のせいだろうか。

今回叱られた件と、直接関係ないと言えばそれまでだが、そういう闇の部分は放置して、くだらない体裁ばかり気にしたルールには敏感に反応する、会社にも上司にもいささかウンザリしていた。

いっそのこと「俺が上からとやかく言われるのが嫌だからちゃんとして」という叱られ方の方が、潔くて好印象だ。

ちなみに、叱っている上司は同じ筋トレジムに通っているのだが（3日坊主ですぐにジムに来なくなったが）そのジムの2階に登る時の階段の手すりは持たないくせに「ルールがなぜ存在しているのか分かる？」「ちょっと考えたら分かるでしょ？」と、偉そうに言う。

ルールの本質を説くのなら、ジムの階段だろうが、家の階段だろうが、手すりは持たないといけないのに、このクソみたいな理屈には呆れた。所詮、体裁だけなのである。

何もかもが限界だった僕は、上司の長い話をひと通り聞いた後に、良い機会だなと思って言うことにした。

「会社、辞めます」

上司は普段、工程に回ってこないから、相談がしたくてもできなかった。

時間を作ってもらうことができずにいたので、呼び出されて叱られたのは都合が良かった。

むしろ、そのために神がかりな確率で手すりを持っていないことがバレたのだと自分を納得させた。

その３ヶ月後、僕はずっと辞めたかった会社を退職した。

最後の夜勤明けの帰り道、晴れ晴れしい気持ちになって足取りが軽かったのを覚えている。

第１章：工場勤務に未来はない

最初に結論から言っておく。工場勤務に未来はない。

この未来はないというのは、工場自体に未来がないのではなく、工場で働いている人には未来はないということだ。

また、工場勤務じゃなくても、単純作業をしている労働者にも同じことが言える。

たとえば、コンビニやスーパーのレジ店員や、食品製造で働いている人に関しても同様だ。ここでいう工場勤務とは「誰でもできる代わりの利く仕事」だと思ってもらって良い。

そして、工場勤務に未来がないことの理由を改めて説明しなくても、この書籍を読んでくれているあなた自身が一番よくわかっていると思うが、頭でキチンと整理する意味でもちゃんと知っておく必要があると思っている。

1-1：やりがいが全くない

工場でせっせと働くことにやりがいを見出せる人はいるだろうか？

もし、コツコツ作業をすることが好きだとか、工場は人と関わらずに済むから良いということに対して、やりがいや価値を見出していたとしても、将来のことをもっと良く考える必要がある（そもそも、工場勤務にやりがいと見出している人はこの書籍を読んでいないと思うが）

やりがいとは、「人生を生きる意味」だと言っても良い。

人は生きている意味を見出せなければ、死んでいるのと同じだ。自分の本当にやりたいことを押し殺したまま生涯を終えたら、残るのは後悔の念だけ。

特に、仕事に関してはもっと真剣に良く考える必要がある。

なぜなら、寝ている時間を除けば、人生の半分以上は仕事をしているからだ。

人生の半分が仕事ということは、仕事のクオリティで人生の質の半分が決まってしまうこととイコールと言って良い（QOL と言ったりもするが、それはあとで説明する）

そんな大事な人生の大半を、誰でも代わりの利く、やりがいのない工場勤務で終えてしまっても良いのだろうか？ 僕は死んでもダメだと思う。

たとえば、「工場勤務はやりがいがない」とつぶやいたとする。

そうすると、主に中年のオジサンなどが「仕事はそんなに甘くない」「その中でやりがいを見つけるのが大事なんだ」と言ったりするが、それは綺麗ゴトだと思う。

工場勤務でやりがいを見出すのは、よほどの変態じゃない限りできない。単純作業にやりがいを見出すこと自体が、人間にとって達成困難な課題なのだ。

実際に僕は工場で働いているときに、タイムアタックといって、作業を終えるまでの時間を測ってみたこともあるが、それとやりがいを見出すこととはイコールにならなかった。

仕事がいつもより早く終わったからって、仕事ができなくていつもボロクソに言われるオジサンより給料がもらえるわけでもなければ、交代勤務だから早く仕事を切り上げることもできない。

要はタイムアタックをしても達成感やメリットがまるで無いわけだ。

じゃあ、小集団活動（QC 活動）はどうなのか？ と言われるとそれも論外だった。

なぜなら、小集団メンバーのやる気がすでに死んでいるから。だから、良いものは絶対に生まれないし、担当の上司ですらテキトーに済ませる気だった。発表の資料も、上司の目を欺くために作られたそれっぽいことを喋る資料だ。

不毛すぎやしないか？ たとえ、一生懸命頑張ったとしても反映されないし、そもそも頑張ると白い目で見られる。みんな変わることを恐れているから。

つまり、工場で働いていたら、大半はやりがいを見出すことができずに目が腐っていく。

それでも働くことが尊いとか言ってくるオジサンがいるが、立派な奴隷根性が染み付いた証だと思う。

どこかで自分を納得させて、それを人にも強制させているだけのように感じる。その証拠に自由に生きている人がいたら、徹底的に粗探しをして叩いたりもする。

たとえば、そういうオジサンに子どもが居たとして、やりたいことを押し殺していたり、仕事にやりがいを感じずに働いている自分の姿を子どもに見せても平気なのだろうか？ こういう疑問が常に浮かんでくる。

可能性に満ち溢れた子どもが「この仕事がやりたい！」と言ってきたら頭ごなしに否定するのだと思うと、お節介ながら、その子の将来が可哀想になる。

とにかくだ。工場で5年ちょっと働いて行き着いた僕の結論としては、工場で働いている限り、やりがいを見出すことは不可能だということだ。

やりがいを見出すことは不可能なのだから、人生の質が下がることもセットで付いてくる。これは避けようがない。

1-2：肉体と精神がじわじわ削られる

工場勤務はやりがいがないだけではない。

単純作業が長時間続くこと、3 交代制度（朝、夕、夜の労働をグルグル回す勤務形態）を強いられる関係で、肉体と精神をじわじわ削られる。

僕が働いていた部署でも、うつ病になってしまった男性社員の方が 2 人いた。

2 人とも家庭のある男性だったが、単純作業でまともにコミュニケーションが取れない環境、3 交代で体調管理していく厳しさに耐えきれず、半年間仕事ができない体にされてしまった。

会社を辞めるときにあいさつに回ったが、うつ病になる前と、うつ病になった後とでは、コミュニケーションの仕方がまったく違って驚かされた。

2人とも僕より10歳も20歳も年齢が上だというのに、めちゃくちゃ挙動不審で自信がなくなっていたのだ。何かに常におびえているという言い方がしっくりくる。

片方の男性に関してはうつ病になる前に喋ったときは、明るくタメ口で接してくれていたのに、うつ病になったあとは自信がなさそうに敬語で話していたのが印象に残っていた。

工場で働くことの恐ろしさを身近に感じた。

単純作業も3交代も人間をたやすく破壊するのだと彼らを見て思った。

給料の話はあとで詳しくするが、父親が半年間うつになって働けないのは、家庭としては致命傷を負ってしまうだろう。

たとえ、会社からいくつか手当が付くとしても、給料が本来の何％以下になってしまえば、今までの生活ができなくなるので、貯金を切り崩すしかなくなる。

ましてや、子どもがいればなおさらだ。

そして、うつ病になってしまった彼らだけではない。

多くの人が口を揃えて夜勤をこのまま続けるのはしんどいと言うのだ。

「君の時のように若い時は徹夜したり無茶できたけど、30 代になってから、歳を重ねるごとに夜勤がキツくなっていくんだ……」

こういう「辛い」という言葉を何度も何度も聞いてきた。

工場で働くということは健全じゃないのだ。

僕は、やりがいのない生きる意味が見い出せない、そんな単純作業に寿命を捧げていたのだ。

1-3：スキルが何も身につかず、成長しない

工場勤務は単純作業の連続だ。

正直な話、その辺の中学生でも、体が元気に動くおじいちゃんでもおばあちゃんでも、機械を動かそうと思えば動かすことができる。

これがどういうことかというと、誰にでもできるがゆえに、振り返った時になにもスキルが身についてないという深刻な問題が発生する。

実際に僕が働いていた工場で30代40代の人は「この会社にいても何もならないよ」と、常々言っていたので、何年も工場で働いていたら、その通りのレールを歩むことになってしまう。

10 年経って振り返ると、何もスキルが身についていなかった。これは非常にマズい。

後で記述するが、これからは AI の時代だ。人間ができる仕事を AI（ロボット）が代わりにするのが当たり前の時代になる。

ということは、誰にでもできる仕事は、価値がなくなると同時に、AI が取って代わるようになるということだ。

ここ、超重要なので何度も復唱してほしいくらいだが、そうなれば、リストラされる可能性も決して低くない。

不満をグチグチ垂れて感情の起伏が激しい人間よりも、黙って 24 時間働ける AI（ロボット）の方を、経営者は選びたいと思うに決まっている。

ある日、突然「もうこの機械はロボット 10 台とオペレーター1 人で動かすから、半年後までに次の就職先探しておいてね」と、上司に肩をポンと叩かれた時に、何もスキルを磨けなかった人間には絶望しか待っていない。

そういう時代が目前まで迫っていることに危機感を持つべきだ。

というか実際にはもう AI などは投入され始めている。

たとえ、もうしばらく人が働くとしても、外人を働かせるという手段が採用されるようになる。

僕が働いていた会社でも、外国人が多かったが、彼らは日本の社員より 1.5 倍の時間働いて同じ給料を支給されていた。

誰でもできる単純作業なら、同じ給料で 1.5 倍働ける外人を雇いたいのが経営者の本音だ。

それに、スキルが身につかない環境はほかにもある。

それは誤解を恐れずに言うと、向上心の低い、今日その日さえ乗り越えられれば良いと思っている社員が多いという現状だ。

あなたはこの書籍を読んでいるので、ちゃんと工場で働くことに危機感を持っているのだと思うが、全員が全員、危機意識があるかというとそうではない。

彼らの大半は、ソシャゲの話か、バイクや車の話か、パチンコの話しかしない。

この先の未来がどうなっていくのか？ 自分たちが今どういう境遇に立たされているのかを考えもせずに、遊び呆けてばかりいるのだ。

そんな環境に居続ければ人間として成長しないに決まっている。

彼らは遊びのことか、他人がポカミスしただとか、結婚しただとか、恋人と別れただとか、そういう愚痴や噂話のことで頭がいっぱいなのだから。

だからこそ一刻も早く、この不健全な環境から抜け出す必要があるのだ。

1-4：給料が増えずにジリ貧になる

高校を卒業して、大手の工場に勤めた僕は、最初は給料が多いと祖母と一緒になって喜んでいた。

実際にその辺の大卒よりも給料が多いし、ボーナスもしっかりと年２回もらっていた。

しかし、先輩社員に話を聞いてみると、いくら年齢を重ねてもこの給料から大した変わらないという。

そもそも寿命を削ってフラフラになりながらやっている夜勤の手当を除いたら、その辺の高卒の給料よりも低いことが計算したらわかった。

この事実はよく考えれば当たり前のことである。

誰にでもできる仕事に価値はないからだ。

中卒でも、高卒でも、オジサンでも、オバサンでも、体さえ動けば、おじいちゃんでも、おばあちゃんでもできるような仕事が単純作業だ。

はっきりと綺麗ゴト抜きでいうと、そんな仕事に価値はない。

経営する側の立場になって考えたら分かるのだが、戦力になるような右腕の存在にこそ給料をたくさん支払うが、誰にでも取って代わる人間に対しては雀の涙ほどしか給料を支払わない。支払う必要がないからだ。

だから、給料が低いのは当然のことである。

そして、どう考えても将来性もない。

なぜなら、誰にでもできる仕事をやり続けているから。昇給しようが、昇格しようが、給料はさほど変わらない。

実際に僕が働いた会社では、1 年間で給料が数千円上がった程度だし（上がるだけまだマシとも言われる）試験に受かって昇格したときは 6000 円ちょっと給料が上がった。

6000 円って聞くとまあまあ良いと思うかもしれないが、この試験に費やした時間は 3 ヶ月で、毎日 2 時間勉強だ。

はっきり言って、そんなことに毎日 2 時間使うのなら、それこそ僕が推奨しているネットビジネスに時間を費やした方がはるかに大きく稼ぐことができる。

月に数十万程度なら、努力すれば誰にでも達成可能なのだ。

そう考えると、3ヶ月間、2時間勉強して、6000円という金額がいかに非効率なのかがわかる。 苦労に全く見合ってない。

そもそも雇う側は、工場で働いている社員をしょせん歯車の1つとしてしか数えられておらず、不要になれば真っ先に切り捨てにかかる。

だからこそ、自分の力で生きていけるスキルを身につけていかないといけない（後で記述）

1-5：これからはAIの時代

さっきから何度も言っている誰にでもできる仕事というのは、これからの時代AIに取られてしまう。

理由はカンタンで、誰にでもできるのなら、AIに任せてしまって淡々とやってもらう方がコスパも効率も良いからだ。

愚痴や不満を垂れて感情にムラのある人間と、淡々と休まずに文句も言わずに働いてくれる AI（ロボット）なら、経営者は後者を使いたいと思うだろう。

ロボット複数台とオペレーター1 人が現場を動かす時代が、近いうちにやってくるのだ。

それこそ、工場勤務だけじゃなく、レジの店員、ホテルの受付、タクシードライバーなど、こういう仕事はAI（ロボット）がこれからの時代を支配する。

すでにレジ精算くらいなら、もう人間じゃなくて機械がやっている場所を見るし、ホテルの受付も機械がやっていたりする場所もある。

こういう現場を目撃した時に、「あぁ、便利になったなあ」という感想だけでは危険だということだ。

今あなたが働いている場所もいずれそうなるという危機感を持たないといけない。

いきなりそうはならないにしても、外人を労働力として導入する工場は多い。彼らは日本人より低賃金で、日本人よりも長い時間労働してくれる。

経営者にとってはそっちの方が当然ありがたい。経費として一番かかるのは人件費だからだ。経営者はここをどうコストカットできるか悩ませている。

実際にコンビニの店員さんも外人が増えてきたし、有名な回転寿司の店でも外人が働いている場面を見かける。

彼らはカタコトで喋るが、利用する側からすれば、そんな些細なことはどうでも良い。

誰にでもできる仕事というのは、AI（ロボット）や外人にどんどん奪われていくのだ。

だからこそ何の危機感も持たずに、のほほんと働いていることがいかに危険なのかが分かると思う。

ぼーっとしていれば、その先は破滅なのである。

そうなってからでは何もスキルを持たなかった人が立て直すには遅すぎる。

第 2 章：人生の QOL とは？

第 1 章では工場勤務には未来がないという話をしてきた。

これらは紛れもない事実で、決して軽視できない問題だ。

僕らは AI ではない。人間である以上、人生に意味を見出さないといけない。人生にやりがいを見出さないといけないのだ。

この章では QOL（人生の質）の見出し方について言及していく。

2-1：QOL とは？

quality of life（クオリティオブライフ）の略で、生活の質という意味である。

QOL が高いほど人生が充実していて、QOL が低いほど人生が充実していない、という認識で問題ない。

QOL は、当然ながら人生のクオリティを決めてる指標であるため、第 1 章でも言ったが、人生の大半を費やす仕事にやりがいを見出せなければ、QOL は低くなる。

いかにこの QOL を高くするのかを考えるのが、AI が普及していく中、我々の課題なのである。

2-2：工場で働く限り、QOL は低いと言わざるを得ない

工場にはやりがいを見出すことはできないと第１章でも言ったが、そうなると当然 QOL は低いということと結びついてくる。

単純作業である限り、頭を使わないし、あなたじゃなくてもできることになるので、生きている意味を感じることができない。

これは、あなた自身が一番良くわかっていると思う。

ちなみに工場で働くのはやりがいがないと言ったら「職場にいる人たちが良い人だよ」と、返してくる人がいるが、もっとよく考えよう。

こういうことを主張する人に言いたいのは、その「人たち」とやらが居なくなったらどうするの？ ということだ。

簡単な話、その人たちが異動したり辞めたりした瞬間に、その良い人たち「居心地が良い王国」というのは、もろく崩れ去ってしまうのだ。

実際に、僕の知り合いでも同じことを言っていた人がいたのだが、仲の良かった歳下の後輩と離れ離れになってしまって、仕事が一気につまらなくなったと言っていた。

やはり、人間関係ありきの「楽しい」では、その人がいなくなった瞬間に、はかなく散ってしまうのだ。

人間関係だけを軸にやりがいを見出すのは非常にリスキーであるということだ。

人間関係を良好にすることや、周りの人たちと楽しく仕事することに対しては何の反論もない（むしろ、人間関係を良好にすることはQOLを高める上で大切）

だがしかし、それを精神的なよりどころにしていると、ある日突然、虚しく崩れ去ってしまうということが言いたい。

班や会社を管理している側の人間にとっては、歯車の一部の人間関係がどうなろうと知ったことないのだから。

そういう意味でも工場勤務にやりがいを見出すことはできないと言える。

2-3：1度きりの人生、それで良いのか？と問う

人生は1度きりだ。後になって後悔しても時間を取り戻す術はない。

だから、仕事に対するやりがいと、人生を通してもっと真剣に向き合う必要がある。

ここでは僕を含め、会社を辞めてやりたいことをやっている3人を例に出そう。

・同じ部署だった先輩女性社員の方のケース

彼女は僕の１つ上の先輩で、僕が会社を辞める、約1年半前に会社を退職した。

僕も会社を辞めようと奮起していた時期だったので、先を越されてすごく悔しい思いをしたことは横に置いておくとして、彼女は英語を本格的に学びたいという理由で、己の身１つで海外に旅に出たのだ。

18歳で就職して、20代前半くらいまでなら、僕が働いていた会社は給料が良い部類に入る。

だから、しっかりとお金を貯めて海外に飛び立ったのだ。

先日、その先輩が１年ぶりに日本に帰ってきて、話を聞く機会があったのだが、工場で働いていた時よりもキラキラした素敵なオーラを放っていて、やりたいことを自由にやれている人の目だった。

ご飯を食べながら、海外の話をたくさん聞かせてもらったが、「もう２度と工場には戻りたくない」というセリフが一番印象に残っていた。

・僕の師匠のケース

僕が会社を辞めて独立起業できたのは、間違いなく師匠のおかげだ。

この師匠に出会えていなければ、今の工場で文句を言いながら奴隷のように働いていたことだろう。

だから僕自身の活動として、こういう出会いやチャンスを積極的に作っていきたいというビジョンがあるのだが、それはひとまず良いとして、師匠は工場勤務出身ではない。

やりがいのない工場とは違い、師匠は逆に 24 歳のころに課長になり、出世コースが決まっていたエリートサラリーマンだった（才能ではなく、本人がかなり努力したということが大きいが）

そんな師匠も人生1回きりということで、27歳のときに独立起業を果たして、社員さん1人を雇って会社を経営している。

ちなみに、その会社は10年以上続いているから、実力はホンモノの人だと言えるだろう。

僕にコミュニケーション、恋愛、肉体改造、ビジネスなどあらゆるQOLを上げてくれるノウハウを伝えてくれた恩人の話だが、彼もまた自由にやりたい仕事をやっているのだ。

・神楽のケース

そして、僕自身のケースだが、僕は 18 歳から 23 歳までの 5 年弱の間、工場で働いていた。

社会人 2 年目のときに、工場で働き続けることに疑問を持ち、20 歳過ぎたころにビジネスの勉強をして、23 歳の夏に会社を退職した。

「3 年もかかったのかよ」と思われるかもしれないが、無駄な遠回りをたくさんしてきたので、独立するために大事だった作業だけを切り抜いたら、1 年くらいで達成したことになる。

人生 80 年のうち、たった 1 年頑張っただけで (無駄な期間を含めた 3 年間だとしても) 人生が逆転してしまうのだから、人生は面白い。

18 歳から 60 歳まで奴隷のように工場で働くことを考えたら、1 年という対価は破格だと思う。

会社を辞めることについて、親や祖母に猛烈に反対された時期があったが、途中でベラベラ他人に喋るのをやめて、会社を退職して結果を出してから報告したら納得してくれた。

結果で黙らすのが一番早いんだとその時に学んだのだ。

余談だが、ビジネスなどにチャレンジするときは協力者以外に話す必要なない。

特に親だったり奥さん（旦那さん）には言う必要がない。

はたから見るとネットビジネスの認知度はまだまだ低く、怪しいことをしていると、心配で猛烈に止めにかかってくるからだ。

さっきも言ったが、結果を出して実力で認めてもらうのが一番手っ取り早い。あれに挑戦する、これに挑戦すると、人にベラベラ喋ってしまわないように気をつけよう。

どうしても身内にバレてしまうのであれば、いついつまでにどれくらい稼ぐから、その間だけは見守っていてよ。もし、稼げなかったらちゃんと止めるから。と、言えば良い。

身内は心配して止めてくるのだから、それくらいの配慮は必要になってくる。

ともあれ、僕を含め３人に共通するのは、やりたいことを諦めず、そのために着々と準備を進めていたことだろう。

本気で目指したいと願った時、人の人生は前に進み始めるのだ。

2-4：神楽は工場勤務を辞めてどうなった？

では、僕が工場勤務を辞めてどうなったのかもシェアしたいと思う。

結論から言って、辞めて心の底から良かったと思っている。

理由はいろいろあるのだが、まず１つにストレスが無くなった。関わりたくない人間、やりたくない仕事、3交代という命を削る勤務、この３つが無くなると人間はこうもストレスが無くなるのかと、感動すら覚えた。

人間関係も仕事も環境も、お金をもらう行為なのだから我慢して働けっ！ と街のインタビューとかでオジサンが言っているが、はっきり言ってクソ喰らえである。

努力して、劣悪な環境から脱出できるのならした方が良いに決まっている。

そんな環境はちっとも健全じゃない。日本人は辛い目にあって汗水流して、働くことが美徳みたいな奴隷根性が染み付いているが、そんなことしなくて良いのならそれに越したことはない。

人間はもっとワガママで良いのだ。

もちろん最低限のルールや、責任が伴う行動はしないといけないが、それさえ守れればもっと自由であるべきだ。

人間関係、仕事、環境から逃げ出すことに成功した僕は、ストレスという概念から解放された。

自分がチャレンジしていることに対するプレッシャーは軽くあるのだけど、これは「心地良いストレス」に分類されるので楽しい。

会社を辞めてから、無駄で不毛なストレスから解放されたのだ。

２つ目が自由な時間が増えたこと。

彼女とは職場で出会っているが、シフトが違うことと３交代がある関係で、なかなか会うことができなかった。どちらかが眠い目をこすりながら、我慢しながら会うという状況を強いられていた。

だけど、会社を辞めてからは、そういうのを一切考えなくて済んだ。会いたい時に会う、これが実現したのだ(ちなみに彼女も自由を目指してビジネスを勉強中)

それに、工場で働いていた時から筋トレが日課だったのだが、これも夜勤が終わった後に、眠い目をこすりながら行く必要がなくなり、平日の真っ昼間から人が少ない時間帯に、気がすむだけダンベルやバーベルと戯れることができた。

しかもジムには大きな風呂が付いているけど、これも空いている時間帯を狙って独占して入ることもできる。

昼の 12 時くらいに、ほっと溜め息を付きながら入る大きな風呂は充実感を与えてくれる。

パソコン 1 台あれば、どこでも仕事ができるため「出勤する」という概念そのものがなくなり、ジムを広く長く使うのも、美容院を空いている時間帯に予約入れるのも、ふらっとランチをすることもできるようになった。

ありきたりだが、好きな時間に寝て、好きな時間に起きることも可能になった。

大好きな海外ドラマウォーキングデッドを、朝から夜明けまでぶっ通しで観て、昼過ぎに起きることもできる。

そして、工場勤務時代よりも多くのお金を稼げるようになった。

むかしは良い高校、良い大学、良い就職先が絶対のルールだった。つまり、僕のような公立高校で最弱の高校に出ていて、そのあとに工場勤務に就職しているような人間は、人生が詰んでいたと言えるだろう。

だけど、今は時代が違う。

第 3 章でも説明するが、今はこの時代で誰でも人生が逆転できるチャンスに恵まれている。この時代に生まれてきて本当に良かった。

数十年前に生まれていたら、間違いなく僕の人生は終わっていた。

そして何よりも、自分が本当にやりたいと思っている道に進めたことが、工場を辞めた中での一番良いと思った理由だ。

自分の心に正直になって、頑張ってきて本当に良かった。

第３章：これからは個人が活躍する時代

ここまでの話を聞いて、工場で働くことに絶望したり、僕や僕の周りの人の話に対してネガティブな感情を抱かないでほしい。

確かにここで話が終われば、ただ単に工場で働き続けることの恐ろしさと、自慢にも聞こえる話を聞かされただけのようになってしまうが、あなたに大いに関係ある話はここからだ。

僕が伝えたいのはここから、という言い方もできる。

一言でいえば、中卒だろうが、高卒だろうが、工場勤務だろうが、誰でもできる仕事だろうが、今の時代はみな平等にチャンスが与えられている。

その可能性に気付けるかどうかが、今後の QOL を左右すると言っても過言じゃない。

どういうことなのか、それを解説していく。

3-1：インターネットによる恩恵

数十年前はインターネットなど普及していなかった。

だから、完全に現実（オフライン）のみで勝負が決まってしまうわけだ。

それこそ良い高校を出て、良い大学を出て、良い場所に就職することが、人生で成功するための秘訣だと言われていた（ちなみに、この手の話を今でも持ち出す人は、時代遅れと言って良いのでガン無視で OK だ）

つまり、僕のような勉強ができずに底辺高校に入った人間には、夢も希望もない世界だったのだ。工場で働いていた時点で人生の分岐は、悪い方に確定していた。

だけど、今の時代はどうだろう？ インターネットが普及してきて、誰もがオンラインへ気軽にアクセスできるようになった。

ブログ、YouTube、Twitter、Facebook、Instagram、などなど個人が主張できる媒体が圧倒的に増えたのだ。

そしてその媒体を使って、支持してくれるファンを集めることができれば、そこからお金を生み出せる時代になった。

それこそ YouTuber とかが良い例で、彼らは面白い動画をアップすることで視聴者やチャンネル登録者を増やしていって、そこから収益を上げている。ファンありきの働き方だと言える。

他にもブログを書いて収益を得る人、Instagram に写真を上げて、大手企業から報酬をもらって収益を得る人など、お金の得る方法がむかしに比べて多様化したのだ。

難しく感じるかもしれないので、簡単にいうと、インターネットという恩恵に乗っかることによって、個人でもお金を稼ぐことが容易になったということ。ここさえ抑えておけば問題ない。

その手段に関しても、しっかりと知識を付けて実践していくだけで、僕のような底辺高校出身の人間にも、自由に生きられるチャンスが与えられるのだ。

記述してなかったが、工場勤務などの誰でもできる仕事の唯一のメリットといえば、定時で上がれる可能性が高いという点だろう。

なかにはそうじゃない人もいるかもしれないが、営業やサービス業に比べると圧倒的に残業が少ない。

そのチャンスをしっかりと活かして、裏で牙を研いでいけるかが重要になってくる。

3-2：個人がしっかりと活躍していける時代

「そんなことができるのは一部のすごいやつだけだ！」

僕もビジネスにチャレンジする前は同じことを思っていた。こういうことができるのは頭の良いやつだけなのだろう、と。

しかし、その考え方は違った。それこそ月 100 万円を自動で稼ぐ仕組みを作るくらいなら（自動という言葉を怪しいと思わずに、オープンな気持ちで聞いてほしい）ちゃんとした知識×行動で十分に達成できる。

これがこの時代の恐ろしいところだ。

つまりは、この事実を知らずに工場で文句を言いながら働く人、この事実に気が付いて影で努力して会社を辞める人、この両者を比べたらQOLに天と地ほどの差ができる。

気付いているか、そうじゃないかの違い。ただこれだけだ。

あとは、ちゃんとした人からちゃんとした知識を学んで、ちゃんと行動すれば結果は出る。

何度も言うが才能は必要ない。

それは、底辺高校出身の僕が証明しているのではないだろうか。結果を出してその過程を振り返ってみても、特別な才能はなに１ついらないと断言できる。

やかましく何度も繰り返し言うが、ちゃんとした知識×行動で結果を出すことができるのだ。

あとはやるかやらないか、ただそれだけである。

3-3：誰にでも可能性というチャンスは開かれている

工場で働き続ければ、チャンスは閉ざされたままだ。狭い人間関係、狭いコミュニティ、狭い価値観、これらに縛られながら一生を終えることになる。

どこかのタイミングで家庭を持ち（すでに持っているかもしれないが）子どもが生まれた時に、やりたいことを思い切りやっている親と、やりたくないけどお金のため家族のために嫌々ながら働いている親だったら、どちらを尊敬するだろうか？

僕は子どもができたら「好きなことを責任持って、とことんやりなさい」と胸を張って言える大人になりたいから、絶対に人生に妥協したくないし、自分がやりたいことをキラキラした目でやり抜いてそれを証明したい。

話を戻すが、チャンスは誰にでも開かれている。その情報をきちんと掴み取って、知識を入れていって、実践するかどうかである。

何年も勉強しないといけない国家資格などと違って、1ヶ月も集中して学べば、自由になれるための知識は一通り身につく。

無理して鬼門をくぐろうとするよりも、はるかに安全で確実に結果を出すことができるのだ。

しかも、これらの国家資格を取ったからといって、収入が一気に何倍、何十倍というわけにもいかない。コスパが悪すぎる。

第4章でも触れていくが、誰と出会ってどんな知識を得るのかが、これからの時代では重要になってくるのだ。

それこそ、工場で一生奴隷のように働くのか、そこから抜け出して自分のやりたいことを目一杯やれるのか、それくらいの違いが出てくるのだ。

第 4 章：工場勤務の奴隷から解放されるには？

いよいよ終盤に入っていくが、この章では工場勤務（や、誰でもできるやりがいのない仕事）から解放されるのはどうすれば良いのかを解説する。

僕はもれなくこのルートを通ってきたし、僕の周りで自由になった人も同じルートを辿っている。

つまり、工場勤務の奴隷から解放されたいなら、このルートを辿るのがゴールデンルートとなる。本気で目指したい人はぜひ参考にしてほしい。

4-1：外の世界を知ること

まずは、外の世界、つまり工場勤務やその延長線上で働くこと以外の、素晴らしい世界があることを知ろう。

自分はちっぽけな世界で生きていただけなんだと気付けるだけでも、暗闇のトンネルを抜けたように視野が拓けて明るくなる。

おそらく以前のあなたは、工場で働くか、もしくは別の場所に就職することを考えていたハズだ（就職できたとしても給料の面の心配をしていたと思う）

要は視野が狭かったと言える。

ここで言いたいのは、工場で働いて惰性で死んでいくことだけは止めようということ。

工場で働くことを心から望んでいて楽しみながら働いているなら別だが、この書籍を読んでいるくらいだから、そんなことは決してないハズだ。

それなら、まずは外の世界を知って（この書籍を読んでいる時点で視野は多少なりとも広がったと思う）そこへ飛び立つ準備を始めよう。

今上手くいっている人もみんなそうしてきた。

自分の知らない世界を知って、常識を破壊して、その世界に行くために行動をしてきたのだ。

そして、外の世界に行ける人間は特別だと思わないことも重要だ。

だいたいこの手の話をすると「君には才能があったんでしょ」と言われるか、そういう顔をされるかだが、断じて違う。僕に才能などなかった。

学歴がないことは何度も話してきたから、そろそろ言いたくないのだが、僕の最終学歴は高卒でしかも偏差値が一番低いところだ。なので、勉強ができる頭は一切関係ない。

大事なのは外の世界が存在していることを知り、そこに行くのを強く望み、その方法を素直に実行していくことだ。

ぶっちゃけ言って、プライドが高くてちっとも素直になれない東大生よりも、素直でなんでも実行できる中卒の方が成功できる。

成功するのに特別な才能はいらないし、余計なプライドはいらない。ただ素直に実行できるかどうかなのだ。

4-2：外の世界へ行くために知識を得ること

知識の重要性を侮る人が多い。

が、知識を得ることは間違いなく外の世界へ行くことのキーポイントとなる。

この人の言っていることは信頼できそう、この人のことは何だか好きになれそう、こういう人がいるのであれば、その人から徹底的に外の世界に行くための知識を学ぼう。

具体的にはどうやったら工場で働くのを辞められるのか、その手段を得る方法だ。

ここで大事になるのが、お金をケチるのは良くないということ。無料のものは知識としてまとまっていなかったり、粗悪なものが紛れていることが多い。

そして、何よりも本人が本気になれない。

ライザップでダイエットに成功する一番の秘訣は大金を払って結果にコミットしているからだ。

無料の情報を得ようとするなかでも、Google などで調べた情報をとりあえず実践してみるとかは最悪だ。

Google はアルゴリズムによって検索結果をコントロールしている。それがどう言う基準になっているのかというと、綺麗にまとめられて論理的に証明づけられた文章を検索上位に上げるようにできている。

簡単にいうと、役に立つ情報≠Google の上位表示されている情報とは限らない。

こう言う知識を含めちゃんと知っておかないと、かなり遠回りをするばかりか結果が一生たっても出ないなんて悲惨なことが起こる。

Googleなんちゃらという話は忘れてもらってOKだが、無料ですべてやろうとすることが大きな遠回りになるということだけは忘れてはいけない。

だから、信頼する人を見つけ、その人から徹底的に学ぶという選択を取るのがベストになる。僕自身も師匠から学ぶことにお金の投資を惜しまなかった。

教材は全部買ったし、セミナーにもかなり足を運んだし、決して安くはないコンサルを受けたこともある。その結果、今の自分がある。

ここまでオールコンプリートする必要はないが、しっかりと自分の将来や未来に自己投資する意識を持って学ぶことができれば、大きく外の世界へ近づく。

少なくとも、ソシャゲの課金、バイクや車の費用、パチンコで無駄になるお金よりは、100 倍以上有意義な使い方だと言える。

知識やスキルは、頭の中に放り込んでしまえば、誰にも盗むことができないし、その知識を使って何度でもお金を得ることが可能だからだ。

ぜひ、自己投資をするという意識を持とう。

4-3：外の世界へ行くために邪魔になるものを排除すること

知識を得ることができたら、外の世界へ行くために邪魔になるものを徹底的に排除することが大事になる。

誤解を恐れずにいえば、人間関係すら絶ってしまわないといけない場合も時としてある。

これは僕の例になるのだが、会社を辞める１年前くらいは、友達と遊ぶのも、彼女と会うのも、飲み会も、余計な残業も、すべて後回しにして断ってきた。

なぜなら、自分が目指したいゴールには直接関係なかったからだ。

もちろん、友達と遊びたかったし、彼女とも会えなくて寂しかったし、会社の飲み会も断り続けて胸が痛んだし、残業をあまりにもやらなさすぎて不快にさせた人もいるかもしれないが、ここまで徹底したから結果が出せたと言える。

こういう娯楽は結果を出してから、存分に好きなだけ楽しめば良い。

ズルズルと惰性した生活をずっと送ってしまうから、人生をトータル的に見た時、QOL が著しく下がってしまう。

一時的で良いので、後で楽をするために集中して取り組む期間は設けるべきだ。

知識を入れたら、それをフル活用して行動するためにも、余計な人・モノ・環境は徹底的に断ち切った方が良い。結果に結びつかない行動は一時的に止めよう。

あと、大きな目標ができたときに、親や友人、もしくは会社の人に声高らかに言う人がいるがそれはやらない方が良い。

高確率で「止めておいた方がよい」「怪しい宗教にハマったの？」などと言われる羽目になる。

僕自身、ネットビジネスで独立起業することを親や祖母に言ってしまったがために、大きくモチベーションを下げられた「洗脳されている」「大手の工場が一生安泰」などと無責任なことを言われ続けていた。

もちろん彼らは心配して言ってくれているのだろうけど、モチベーションが下げられて、行動不能になったら元も子もないので、結果を出した後に報告してあげるのが、お互いにタメになるだろう。

自分の夢に協力してくれる人やコミュニティ以外には基本的には黙っておくのが良い。

4-4：人生のわずかな時間だけ集中して取り組むこと

ここまでの話を聞いて、自分にはやっぱり無理だろうと思われただろうか？

僕はそんな悲しいことを思わないでほしいと心の底から思う。

確かにマッチョに聞こえる話もあったかもしれないが、80 年という長い人生のうち、たった 1 年程度頑張るだけで、工場勤務という名の奴隷から解放され、自由になれると考えたら、その代償は安いと思わないだろうか？

今の時代、学歴や資格がなくても人は変われる。平等にチャンスが与えられている。

底辺だろうが何だろうが１年頑張れば人生が大きく好転するなら、やる価値はあると思う。

変な資格を頑張ってとって、大した給料の変わらないところに就職するくらいなら、ガッツリ外の世界へ行くための知識を身につけた方が絶対に良い。

後で楽をするために今一生懸命頑張る。このことを忘れずに行動できれば達成できるハズだ。

苦しいのは最初だけ。やるにつれて段々と分かるようになり、楽しくなってくる。

知識さえ身につければ、あとは淡々とこなしていくだけだ。

以上、外の世界へ羽ばたいて行くために大事な話をしていったが、大切なのは何度も言っているように、今の苦しみから抜け出すために一時的にガムシャラになって頑張ることである。

一生やりがいのない工場勤務の奴隷から抜け出すことができるのなら、半年、1 年頑張るのは安いものだ！こう思うことができれば確実に結果は出るだろう。

今、なあなあでテキトーに楽に過ごして、後で後悔する人生を歩むのか、今少しだけ頑張って後で自由な人生を生きるのか、僕は後者が良かったので、頑張って行動した。その結果自由になれたので心の底から良かったと思っている。

あとがき

どうも、神楽です。このたびは僕の書籍を読んでいただき、ありがとうございます。

いかがだったでしょうか？ あなたにとって少しでもタメになる話、希望となる話ができたでしょうか？

僕自身、高校を卒業して大手の工場で働くことになり、最初の１年は「給料が多いぜ、やっほーい」って、おばあちゃんと一緒に喜んでいましたが、２年くらい経ったころに考え方が変わってきました。

（あれ、ここで一生働くとか、無理じゃね……？）

こういう考え方に変わっていったんですね。

仕事は毎日同じことを淡々とこなすだけ、そのためやりがいを見出せずにいました。タイムアタックで作業時間をどれだけ縮められるかやってみたんですけどダメでした。すぐに飽きてしまって一時的に退屈さをしのぐことしかできませんでした。

それでいて周りの人たちの目は死んでいて「はあ、まだ２日目か……」「今日が最終日だ！！」「やっと仕事が終わる」みたいに休みまでの残り日数をカウントするのが、作業者の癖で、心の底から仕事を楽しんでいる人は誰１人としていなかったんです。

ただ、ほかに行き場がないから、何となく働いているだけ。家庭がある人はなおさら、不満を押し殺して家族のために働く日々。

最初に登場した上司ですら、身の保身のことだけを考えて、部下である作業者にはちっともコミュニケーションを取らなかったし、上司にはやたら媚びへつらっていました。

まあ、作業者からはかなり嫌われていたんですけどね（苦笑）

それに加えて、3交代で、朝、夕、夜、と4日周期でグルグル回っていましたから、体調を管理するのが本当に大変でした。

夜勤明けの休みなんか、まともに動くことができないから、ずっと寝ていたんですよ。

休み明けに帰って寝て起きたら夕方。

夕方まで寝ると目が冴えて夜中寝れなくなって、気がつくと日が昇っていて、また寝て起きたら夕方で次の日は朝から仕事みたいな。

（なにしてんだろう、おれ……）

って感じることが多々あって、ぶつけようのない虚しさを味わっていて、ふいに涙が出てきたこともあります。

やりがいのない仕事、死んだ魚のように腐った目をした社員、身の保身しか考えないクソ上司、3交代の厳しさ、これに一生耐えられる自信がありませんでした。

実際にうつ病になって半年間休んでしまった２人や、仕事が精神的に辛すぎて逃げ出してしまった外人さんを見ていると、工場勤務は健全じゃないなあと感じざるを得なかったです。

だけど、ご縁があって今の師匠と出会い、こんな底辺高校を卒業した自分でもチャンスがあることを知りました。

学歴なんて関係ない。本当に人生を変えてやるんだ！　という強い情熱さえあれば、誰にだって達成できるんだと、お金が稼げるようになる過程で感じました。

友達との遊びを断り、会社の飲み会も避け、無駄な残業は一切やらず、ガムシャラに作業していたら自由な生活が手に入ったんですね。

集中して取り組んだのは、ほんの 1 年間だったと思います。

1 年の頑張りを長く感じるか短く感じるかは人それぞれだと思うけど、僕は 18 歳から 60 歳まで奴隷のように工場で人間ロボットになることを考えれば、1 年という期間は破格の代償だと思うんですよね。

たった 1 年で、奴隷のような働き方から解放されるんです。

あのつまらない毎日から、死んだ魚のような目をした人間たちから、命を削る夜勤から、解放されると思えば、少し頑張ってみようという気が起こりませんか？

高校を卒業するのに３年、短大を出ると２年、大学を出ると４年、こう考えると１年間努力するだけで、人生が変わる時代に生まれてきて良かったなあって心の底から思います。

ここまでじっくりと読んでくれたあなたは、恐らく僕と似た境遇にいるのでしょう。

毎日同じことの繰り返しで刺激がなく、このまま人生を終えて良いのだろうか？　と葛藤しているんだけど、今更どうやって人生を変えたら良いんだ？　と悩み苦しんで、もがいていると思います。

そんなあなたに僕は伝えたい。

出会う人や知識によって人生は変わります。

もし、この書籍があなたの人生が変わるキッカケになったらこれほど嬉しいものはありません。

少しでもあなたの役に立てたのなら幸いです。

ということで、長くなりましたが、最後まで読んでいただき本当にありがとうございました。

神楽

【著者】神楽

高校卒業してすぐに地元の大手工場へ就職。最初は夜勤もあり、そこら辺の大卒よりも給料が多いと祖母と喜んでいたが、社会人 2 年目になったあたりから（こんなこと一生続けても良いのか……）と、葛藤するようになる。そこから今の師匠と出会い、人間関係のイロハやビジネスのイロハを学び、4 年後の 23 歳の夏に会社を退職。会社を退職した 7 月のときにビジネスで月収 50 万円を達成、8 月に 71 万円達成、10 月には 110 万円を達成。今は自分と同じように工場勤務などで働いていて、人生の目的や行き場を失っている人に自由に生きていくために必要な人間関係やビジネスを通したライフスタイルを教えている。また、コミュニケーションに精通しており、別の活動で恋愛に悩む男性の支援もしている。